

## 【小規模企業景気動向調査】(令和6年8月期調査 全国商工会連合会 9月27日発表分 参照)

### <産業全体>

#### ◇…現状維持が続く中、賃上げへの対応が求められる小規模企業景況…◇

8月期の産業全体の景況は、売上額DIが小幅に低下、資金繰りDIがわずかに上昇し、採算DIは変化がなかった。全産業において、仕入れ価格や光熱費のコスト高が継続している中、猛暑による外出減や自然災害の影響が大きかった産業もあり、事業者にとって苦しい状況が続いている。また、10月に最低賃金の引き上げが控えていることから、業種を問わず、今後の業況悪化を懸念する声が多かった。

### <製造業>

#### ◇…回復基調から小幅な悪化に転じた製造業…◇

製造業は、売上額DIが小幅に低下し、採算・業況DIはわずかに低下した。

全業種において売上額DIが低下した。採算DIについても上昇した業種はなく、売上および利益の確保に苦戦している状況である。また、食料品関連において、原料米の値上げが予定されており、今後の収益悪化を懸念するコメントがあった。機械・金属関連は、一部業種において、海外に依存していた製造を国内に回帰させる動きがあり、今後の需要回復に期待が持たれる。

### <建設業>

#### ◇…堅調な需要の中、適切な価格交渉の重要性が増している建設業…◇

建設業は、売上額DIが大幅に低下し、採算DIはわずかに上昇、資金繰りDIはわずかに低下した。

需要は比較的堅調だが、建設コストの長期的な高止まりから、取引先が価格面について慎重に判断するようになり、利益確保に苦戦しているとのコメントがあった。また、人手不足解消のため、外国人技能実習生の受け入れを検討している事業者もいるが、事務手続きの煩雑さや、人材定着の難しさがハードルになっている状況である。

### <小売業>

#### ◇…回復基調の中、業種による差が明らかになってきた小売業…◇

小売業は、売上額・資金繰りDIが小幅に上昇し、採算DIがわずかに上昇した。

食料品・耐久消費財関連は、全DIが上昇した。食料品関連については、イベントの再開や帰省シーズンの人流増加が要因としてあげられる。耐久消費財については、昨年と同程度の記録的な猛暑の影響により、エアコンの売り上げが伸びたとのコメントが多かった。対して衣料品関連は、売上額・業況DIが低下した。猛暑による外出控えが売上等に大きく影響した。

### <サービス業>

#### ◇…自然災害の影響が大きかったサービス業…◇

サービス業は、売上額DIが小幅に低下し、資金繰りDIはわずかに上昇した。

旅館関連は、売上額DIが大幅に低下した。台風10号、南海トラフ地震臨時情報の発表の影響を受けて、一部地域において宿泊のキャンセルが相次ぎ、繁忙期に水を差す結果となった。クリーニング関連は、全DIが上昇した。イベントや冠婚葬祭の需要が回復したことが要因としてあげられる。理・美容関連は、上昇したDIはなく、低価格帯のカット専門店との価格競争に苦慮しているとのコメントがあった。

## 産業全体

DI	7月	8月	前月比
売上額	52	25	▲27
採算	▲16.1	▲16.1	0.0
資金繰り	▲13.1	▲12.6	0.5
業況	▲10.7	▲11.0	▲0.3

## 製造業

DI	7月	8月	前月比
売上額	4.5	1.6	▲2.9
採算	▲16.9	▲18.8	▲1.9
資金繰り	▲14.3	▲13.9	0.4
業況	▲12.5	▲13.5	▲1.0

## 建設業

DI	7月	8月	前月比
売上額	120	50	▲70
採算	▲15.8	▲14.3	1.5
資金繰り	▲12.0	▲13.8	▲1.8
業況	▲9.3	▲9.7	▲0.4

## 小売業

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲4.3	▲1.6	2.7
採算	▲21.5	▲20.3	1.2
資金繰り	▲18.2	▲15.8	2.4
業況	▲17.0	▲16.7	0.3

## サービス業

DI	7月	8月	前月比
売上額	8.5	5.0	▲3.5
採算	▲10.3	▲11.0	▲0.7
資金繰り	▲8.2	▲7.0	1.2
業況	▲3.9	▲4.3	▲0.4

## 【兵庫県内企業動向調査】

## ●兵庫県の経済・雇用情勢（県 地域経済課 10月22日発表分）

本県の経済・雇用情勢は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

景況等...企業の業況判断は、コロナ禍以降のピーク圏内で推移している。先行きは慎重な見方となっている。

需要...物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は、増加計画にある。

生産...生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては横ばい圏内で推移している。

雇用...雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

金融...倒産件数は、このところ増勢が鈍化している。

## ●県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント（10月16日発表分）

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに回復している。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、緩やかに増加している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。

こうした中、生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては横ばい圏内で推移している。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

## ① 景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区分	R5.6	R5.9	R5.12	R6.3	R6.6(予測)
全産業	9	10	18	14	8
大企業	13	21	24	19	14
中堅企業	11	15	18	10	6
中小企業	5	2	15	14	6
うち製造業	▲1	6	13	9	6
うち非製造業	20	15	23	21	11

出所：県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

## 【川西市の経済動向等について（中小企業景況調査）】

※経営指導員による巡回時のヒアリングから見える川西市内の動向（9月）について

### 市内動向

市内の9月の景気は、長引く円安による物価高により、全般としては、景気の回復に足踏み状態の事業所が多い。小売・サービスでは、2度の3連休により外出機会の増加などもあり、一部業種では売上が上向き傾向となったが、猛暑の影響で季節需要の停滞や電力消費が増えたことにより収益状況は横ばい状態であった。製造業は、一部回復の兆しがあるもののやや悪化しているところが多かった。建設業においては、需要の回復が遅れや仕入単価の高騰が影響により厳しい状況から脱却できていない状況である。全業種において10月からの最低賃金の値上げに伴うコスト増による経営の悪化に不安視している。

### 製造業

製造業では、生産活動は一部好転した企業があったものの、横ばい又は微減で推移したところが多かった。また、材料費やエネルギーコストの上昇が収益を圧迫しており、経営の厳しさが増している。10月以降は、世界情勢の不安定や中国景気が弱い動きが続くことの影響と、国内では、11月から自動車の保安基準の改正が継続生産車にも適用されることにより、受注減が懸念されており、先行不透明感が強まっている。

### 建設業

住宅関連では、新築やリフォームの受注はおおむね横ばいに推移している。一部の事業所では、建築資材の高騰に伴うコスト上昇を価格に転嫁し始めたことで、収支状況がやや好転している事例も見られた。その一方で、その他の事業に関しては、全体的に景気回復が停滞しているか、やや悪化している。原材料価格の高止まり、人手不足等に加え市場の競争が激化していることから、依然として厳しい経営状況が続いている。

### 小売・サービス業

飲食業では、2度の連休により外出機会の増加に伴い、売上が上昇している。その一方で、他の業種では、猛暑による季節需要の機会損失や、空調等の電力コストの増加が影響を及ぼし、景気の動向は横ばい状態が続いている。多くの事業所で顧客単価の低下や嗜好品の売上低下など個人消費の停滞が顕著に見受けられた。

10月以降に関しては、仕入材料の価格上昇や人件費の増加が予想されるため、価格転嫁が避けられない状況となっている。年末年始に向けた需要の拡大による売上増加が見込まれるものの、人件費等の経費増加や人材確保の困難さなど懸念材料が存在しており、情報発信力の強化や人材の育成などの経営施策が求められている。